

生研ニュース

☆講 演☆

- ◇助手 朝倉利光, 研究生 金子昌能「ガス・レーザを用いた光学実験」第 25 回応用物理学会 大阪大学工学部において (1964.11.4)
- ◇助手 高島松雄, 研究生 金子昌能, 水野晴元「万能型レーザ干渉計による干渉実験」第 25 回応用物理学会 大阪大学工学部において (1964.11.4)
- ◇助教授 小瀬輝次, 研究生 佐々木秀行「ルビーレーザの空間的コヒーレンス(Ⅲ)」第 25 回応用物理学会 大阪大学工学部において (1964.11.4)
- ◇助教授 植村恒義, 技官 山本芳孝, 技官 金沢和夫 大学院学生 官崎俊行 日本電気KK基礎研究所 林一雄, 猪脇秀一, 丸山光弘, 「高速度写真によるルビーレーザ加工機構の解析 (第1報) 第 25 回応用物理学会学術講

- 演会 大阪大学において (1964.11.6)
- ◇助教授 早野茂夫, 研究補助員 影山宏, 鈴木孝男 「電流滴定法によるアルキル硫酸ナトリウムの分析」第 3 回油化学討論会 名古屋市工業研究所 (1964.11.11)
- ◇技術員 佐藤和子, 助教授 早野茂夫「アニオン活性剤におけるイオン交換クロマトグラフィー」第 3 回油化学討論会 名古屋市工業研究所 (1964.11.11)
- ◇教授 山辺武郎, 技官 高井信治, 助手 姉尾学, KKヤトロン研究社 広橋憲「CMC イオン交換紙における電気泳動」日本化学会名古屋大会 名古屋市工業研究所において (1964.11.12)
- ◇教授 安達芳夫, 大学院学生 塚田俊久「極値統計学的手法を用いた冗長系の最適設計」昭和 39 年電気通信学会全国大会 No. S1-5 (1964.11.12)

生研ニュース

編 集 後 記

生産技術研究所の観測ロケットの研究については、これまで本誌のロケット特集号という形でその成果の総合的な報告がなされてきた。昭和 30 年 8 月のペンシル・ロケット特集以来、本号をふくめて 16 冊になる。昭和 39 年 4 月、日本の宇宙研究の中心機関となるべき宇宙航空研究所が東京大学内に設置され、これまで 10 年にわたって生産技術研究所が担当してきた観測ロケット開発の事業は、この新しい研究所に引きつがれることになった。

そこで、この機会に生産技術研究所として行なってきた研究のしめくくりとして、昭和 38 年度末までの成果をまとめて特集号を出すことになり、最近の仕事を代表するものとして、ラムダ・ロケット特集の名で本号を企画した。ラムダ・ロケットについては、3 段式 L-3 型の発射実験は天候の理由で延期されて 39 年の 7 月になったが、もともとこのロケットの計画は 38 年度に行なわれたもので、実験結果概略を本号にふくめることにした。実際に編集をしてみると、最近の研究のどこまでこの号に入れるか、くぎりのつけ方がむずかしくて、38 年度までの研究で本号にもれたものもあり、反対に 39 年度のものが入ったところもでてきた。ことに、ラムダ計画がまだ全部完了していないことから、研究結果の公表を後の機会にゆずったものもかなりあることをおことわりしておきたい。

いずれにせよ、生産研究のロケット特集としてはこれが最後で、今後は宇宙航空研究所の刊行物として研究成果の公表が行なわれるであろう。生産研究のロケット特集号は普通号よりずっとページ数が多くなるのが常であって、その編集は出版関係者にとってなかなか大へんな仕事であった。この機会に関係の方々には厚く感謝の意を表したい。

(玉木章夫記)

出版委員	委員	高橋 幸伯	委員	石井 聖光	専門委員	星野 昌一
出版委員長 星 莖 和		*高羽 禎雄		小林 一輔		菊池 真一
委員 山田 嘉昭		藤井 陽一		*玉木 章夫		
成瀬 文雄		山辺 武郎			編集室	水野 晴明
松永 正久		西川 精一				
水町 長生		明石 和夫				

*印当番委員

第 16 卷 第 11 号

生 産 研 究

(本誌は生産技術研究所の研究紹介誌として、毎月 1 回発行する)

1964 年 11 月 1 日 発行

印刷所 三美印刷株式会社
東京都荒川区日暮里町 8-93

頒価 400 円

編集者 星 莖 和
発行者 岡 本 舜 三

発行所 東京大学生産技術研究所
東京都港区麻布新電土町 10
電話 (402) 6231 (代表)
千葉実験場 千葉市弥生町 1
電話 千葉 (51) 8311 (代表)